



## 姫路あけぼの教会礼拝 説教要旨 「神様の選びと導き」(1)

日本基督教団 姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「神は、… 無きに等しい者を、あえて選ばれたのである」(コリント人への第一の手紙一章二八節、口語訳)

〔はじめに〕私は1940年7月に廣田俊平・富子の4男2女の末子として兵庫県姫路市近郊にて生まれました。貧しい家庭でしたが兄弟仲良く育ちました。小学校の教師をしていた2番目の姉が、担任の保護者の一人のクリスチャンに誘われてキリスト教の伝道集会に出席し、その後、母も姉に誘われて貧しい中にも教会に出席するようになりました。

1954(昭和二九)年四月に甥(長兄の長男)が1歳半で急逝し、教会で葬儀をして戴きました(私が中学生の時)。この辛い出来事が「一粒の麦」として、廣田家に救いをもたらし、母と姉は56年4月復活祭に日本基督教団姫路福音教会で末永弘海牧師より受洗の恵みに与りました。私も時々教会に出席するようになりました。

〔高校時代〕私は1957年、高校2年生の秋、修学旅行後に風邪を引き、無理を重ねた結果、全身が浮腫んで亜急性腎炎と診断され、姫路日赤病院に入院を余儀なくされました。1ヶ月程して神様に取り扱われ、自分の弱さと愚かさを示されて砕かれ、聖書を読み直し、悔い改めて救われました。また信仰の先輩たちの導きにより、母と姉に続いて1958(昭和33)年4月復活祭に末永牧師より受洗の恵みに与りました。背後に家族をはじめ多くの方々の祈りがあつた事を覚え感謝しております。以後「恐れてはならない。わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない。わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる」(イザヤ41章10節)の御言葉が病床における励ましとなりました。1年1ヶ月後に退院して高校に復学しました。

3年生を迎えた時、自分の進路について祈り導きを求めて五月に塩屋聖会(神戸)に出席し、独り山で祈っている時、冒頭のみ言葉を与えられ、献身の召命を受けた次第です。

〔神学校在学中〕高校卒業後、姫路福音教会の末永弘海牧師の許で6年間、献身・修業させて戴きました。その間に父が救われ、召天しました。そのこともあり、1967年に神様のお導きにより、東京聖書学校(淀橋教会内・小原十三司牧師校長)に入学を許され、四年間幸いな学びと訓練を受けました。2年目に入って集団検診を受けた時、蛋白尿を検出し、足も浮腫んでいたもので、帰省して二ヶ月間検査入院をし、退院後、復学しても近くの病院に通院し、診察を受ける状態が続きました。

ある時、クリスチャンの医師が私に「牧師の仕事は過労なので今の内に方向転換するように」と進言して下さいました。その事で、祈っていると「神の賜物と召しとは、変えられることがない」（ローマ 11 章 29 節）と、お言葉を与えられ、学びを継続させて頂きました。1969(昭和 44)年に私の母が肝臓癌を患い、信仰の馳場を走りぬいて召天しました。

〔姫路福音教会時代〕1971 年春、東京聖書学校を卒業と同時に母教会の姫路福音教会から招聘を受け、伝道師として赴任しました。末永弘海牧師のご指導を受けながら牧会にも携わらせて頂くようになりました。しかし 1974(昭和 49) 年 2 月に末永牧師が 43 年の牧会伝道の生涯を全うし、骨癌にてご召天になられました。その後、拙い私が主任担任教師として不十分ながら奉仕に与らせて頂きました。1975 年には按手式と就任式をして戴き感謝でした。1969 年には末永牧師のご恩に感謝し、新会堂建築の計画が起り、小国博之長老が建築委員長になって下さり新会堂建築工事に着手しました。その際、小国長老が「建築の責任は自分が持つから、廣田先生は牧会に専念するように」と仰言られ、大変助かりました。

しかし、新会堂が完成し、教会の働きも進展していく内に私自身が何時の間にか高慢に陥ってしまったのです。態度が横柄になり、言葉も門切り調になっていたことを恥ずかしく思います。その時に胃潰瘍になり、足も浮腫んでいましたが、それにも気がつかず鈍感だったのです。ヘロデは「虫にかまれて息が絶えてしまった」とありますが（使徒 12 章 23 節）、私は「高慢」という虫にかまれ、足元を掬われたのです。

「高ぶりは滅びにさきだち、誇る心は倒れにさきだつ」（箴言 16 章 18 節）のみ言葉の通り、健康を損ない、1982 年春に姫路福音教会を辞任させて頂いた次第です。その際、多くの方々にご迷惑をおかけしたことを申し訳なく思います。